

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和5年 3月 1日

公表: 令和 5年 3月 15日

事業所名 放課後等デイサービスみよしMoMo

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		ブレールームやなかよしホール等の幼稚園の施設も利用している。	利用定員(10名)に応じた訓練室等のスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	○		最低人員配置基準に1人の保育士等を加配している。	適切な職員配置に努めている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	階段には手すりを設置している。	事業所が2階にあるため完全なバリアフリーは難しいが、階段には両側に手すりを設置している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に評価と見直しを行っている。	定期的に話し合いをして業務の改善を図っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的にアンケート調査を実施している。	定期的にアンケートを実施して保護者等の意見を把握し、改善できるものについては速やかに対応するように努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公表している。	ホームページ等に公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	自己評価を行い、業務改善につなげる。	第三者評価は受審していないが、評価基準に基づき自己評価を行うようにする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修や外部研修を行っている。	定期的に内部研修や外部研修を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		中間評価と終了時評価を行い、個別支援計画を見直している。	定期的にアセスメントを行い、保護者や子どものニーズを把握して個別支援計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化したアセスメントツールを使用している。	標準化したアセスメントツールを使用しており、定期的に見直しを図るようにする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		複数の職員の合意で立案している。	職員が知恵を出し合って立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どものニーズを把握して活動プログラムを実施している。	プログラムが固定化しないように工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日と休日、長期休暇は別の活動プログラムを作っている。	平日、休日、長期休暇に応じてプログラムを立案している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		障害特性に応じて作成している。	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせ活動計画を立てている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に内容や役割を確認している。	職員朝礼で確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に振り返りを行っている。	支援終了後に振り返りを行い、気付いたことを共有するようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日誌や個人記録に支援の内容を記録している。	日々の支援内容は、業務日誌や個人記録に適切に記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		中間評価及び終了時評価を行い支援計画を見直している。	年2回以上のモニタリングを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	インクルーシブ教育の充実を図るようにしている。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が参加している。	児童発達支援管理責任者が参加するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校のホームページや保護者から情報収集を行っている。	学校のホームページや保護者から直接情報収集を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	主治医から情報を得るようにしている。	医療的ケアを必要とする利用者がいないが、必要に応じて連絡体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	適切に情報共有している。	就学前に利用していた保育園や幼稚園と情報共有を図り、相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	事例がないが、必要に応じて行っていく。	必要に応じて情報提供を行うようにする。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	発達センター等と連携し、助言や研修を受けている。	定期的に発達センター等から講師を派遣して頂き、助言や研修を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	放課後児童クラブの子どもとの交流機会を設けている。	放課後児童クラブとの交流を通して、インクルーシブ教育の充実を図っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	参加するように努める。	参加するように努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳や送迎時等に子どもの情報を伝えるようにしている。	連絡帳や送迎時等に子どもの情報共有を図っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	定期的に保護者懇談会を開催し、保護者への支援を行っている。	定期的に保護者個別懇談会を行い、保護者支援を行っている。	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	新規の契約時や変更のあった都度説明している。	新規に利用する場合に資料を配布し丁寧に説明している。重要事項説明書等を変更した都度、説明し押印してもらっている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	適宜相談に乗っている。	保護者から相談のあった都度、必要な助言を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	新規利用の時は保護者説明会を開催している。	現在は父母の会を開催していないが、新規利用の時は保護者説明会を開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	「苦情処理要領」により適切に対応している。	保護者に「苦情処理要領」の周知を図る。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	ホームページにて活動の様子を発信している。	ホームページ等で定期的に情報を発信をしている。
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報使用同意書により、承諾を得ることとしている。	個人情報保護マニュアルに従って、個人情報保護を徹底するようにしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	情報伝達のための配慮をしている。	絵や写真を活用して子どもに伝えており、保護者には「連絡帳」等により情報を発信している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域住民を招待する行事は行っていない。	併設の幼稚園と連携した行事について検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員は周知しているが、保護者には十分な周知が図れていない。	ホームページにて各種マニュアルを公表するなどして、より一層の周知を図る。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	毎月定期的に訓練を行なっている。	災害時対応マニュアルにより、定期的に訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	定期的に研修を行なっている。	「虐待防止のための指針」を定めており、虐待防止マニュアルに基づいて適切に対応している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	基本的に身体拘束は行っていない。	「身体拘束適正化のための指針」を定めており、必要に応じて保護者に事前に説明し、個別支援計画に記載するようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	契約時に確認するようにしている。	アレルギーの有る無しをフェイスシートに記載し、医師の指示に基づいて適切に対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	事例を共有するようにしている。	事例集は作成していないが、ヒヤリハット報告書により事例を集めるようにしている。